

発煙・発火事故の原因となる

リチウムイオン電池、カセットボンベ、スプレー缶などは

危険・有害ごみへ!

リチウムイオン電池、カセットボンベ、スプレー缶などが燃やさないごみに混入し、クリーンセンター内で発煙・発火事故が発生しています。

対策として、温度・火災検知器、スプリンクラー装置の増設、人員による対応、そしてクリーンセンターで働く人たちの努力により、令和元年度以降消防対応の事故は発生していません。

クリーンセンターを安全、安心、安定的に継続稼働していくため、より一層のごみ分別の徹底にご協力ください。



近年の発煙・発火事故の件数と消火活動の状況

年 度	発煙・発火 件数	消火活動の内訳		
		スプリンクラー による消火	人員による 消火	消防による 消火
平成29年度	29件	26件	0件	3件
平成30年度	122件	66件	53件	3件
令和元年度	144件	118件	26件	0件

まちのできごと



●地域で防災授業

10月3日(土)大野田地域防災の会が、第四中学校で、中学2年生対象に防災授業を行いました。日中に大災害が起きたとき、大人は仕事などで遠方において地域にいるとは限りません。そうすると市内の中学校の生徒の存在は欠かせません。内容は、非常災害時トイレの組立、消火器による消火、備蓄食料倉庫の確認、加圧ポンプによる放水体験、防災資機材の取り扱い、給水施設の見学など。小・中学校のPTAや教師の方々、市の防災課、消防署、地域防災の役員など大勢の方々の協力で、無事終わることができ感謝しています。(北町五丁目町会)

●クリーンセンター周辺の花壇づくり

クリーンセンター建て替えについて施設・周辺整備協議会の話し合いから、施設周辺の中央通りと市道41号線沿いに設置する花壇の管理を緑町三丁目町会がすることになりました。始めるにあたって準備と手続きが大変でしたが、とりあえず役員中心にがんばってみようと思っています。(緑町三丁目町会)

●団地一斉清掃のイベント中止

武蔵野緑町パークタウンの木々も色づき、秋も深まってきました。団地では毎年11月末の市内一斉清掃に合わせて、みんなで団地内を清掃するイベント「一斉清掃クリーンデー」を実施しています。住棟ごとに子どもたちも含めてたくさんの方々に参加し、顔を合わせながら一緒に作業する大切な1日となります。しかし、コロナ禍のため、今年はできなかったことが残念でした。(武蔵野緑町パークタウン自治会)

●できることから少しずつ楽しい催しを

9月20日(日)、団地の集会所やその周辺で、間隔をあけた座席やマスク着用などコロナウイルスの感染対策をしながら、フリーマーケットと昨年好評だったビアガーデンを行いました。約30名ほどの来場者があり、楽しい時間を過ごしました。今後もできる範囲で楽しい企画を予定していきたいと思います。(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)

編集後記 連日コロナ感染者の発生が報じられています。10月から東京でもGo Toトラベル・Go Toイートが解禁され、武蔵野市でのコロナ感染者が増えないか戦々恐々です。外出もままならず足腰の衰えが著しく、早くワクチンが開発されて自由に元の生活ができることを願っています。(早川 峻)

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話:0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<http://www.city.musashino.lg.jp/>

この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 77

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

CONTENTS

- P1…むさしの エコreゾート オープン!
- P3…委員研修会報告
浅川清流環境組合
可燃ごみ処理施設を見学
- P4…発煙・発火事故の原因となる
リチウムイオン電池、カセットボンベ、
スプレー缶などは
危険・有害ごみへ
まちのできごと



環境啓発 施設

むさしの エコreゾート オープン!

令和2年11月8日(日)、環境啓発施設「むさしの エコreゾート」がオープンしました。新型コロナウイルス感染防止のため、検温、手指消毒などの対策をしながら式典と内覧会が行われました。

「むさしの エコreゾート」は、市民との議論を重ねて実現した、ごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」の旧建物の一部をリノベーションして整備されました。

クリーンセンター建設の歴史や議論、成果、思いなどを次の世代に引き継ぎ、ごみをはじめさまざまな環境について一緒に考え、学び合い、行動・活動するための施設です。

コロナ禍により制約はありますが、多くの市民が参加し、親しまれる施設として、みんなで育てていきましょう。

〈利用案内〉

- 開館時間:午前9時30分~午後5時
 - 休館日:火曜、祝日(月曜が祝日の場合は、月曜開館し、水曜休館)、年末年始
- 問い合わせ先
環境政策課環境啓発施設係(むさしの エコreゾート内) 電話 60-1945 FAX 51-5590
ecoresort@city.musashino.lg.jp

※エコreゾートの名前の由来
「再びを意味する「re(リ)」と、フランス語で「出かける」を意味する「sortir(ソルティール)」の略「sort」が合わさった単語で「なんども通う場所」を示す。



エコレポートって何するところ？

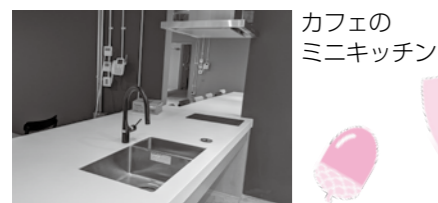


1 フリースペース 旧プラットホームの高さを生かした展示や、ものづくり工房のスペースと併せて大きなイベントを行うことが可能。

2 カフェスペース IHヒーターや水まわりを完備。ロールスクリーンを活用した講座・勉強会などの開催も可能。



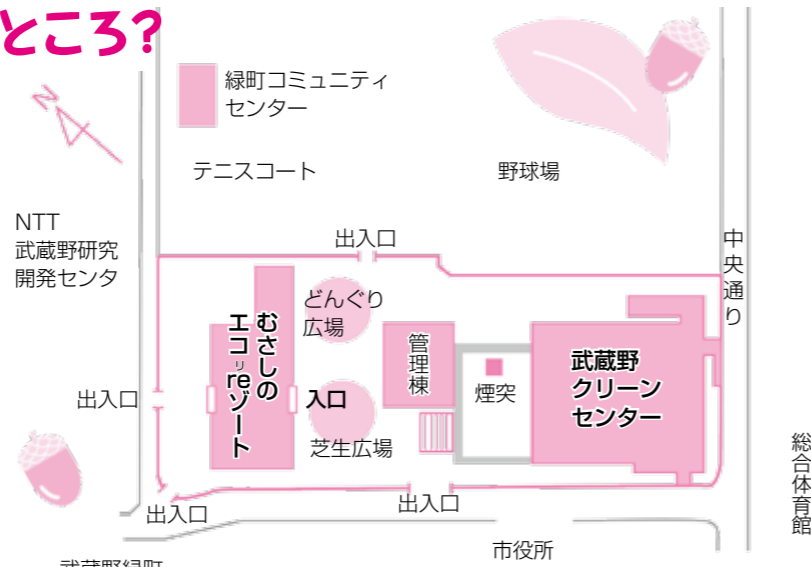
カフェスペースから続く壁面の棚には、展示品や環境関連の本などが並び。



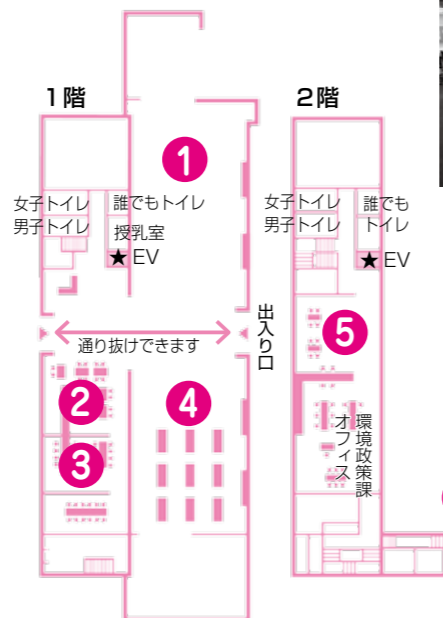
カフェのミニキッチン

当面的間、館内への入り口は1カ所のみになります。

- ・Wi-Fi利用が可能です。
- ・貸し出し用タブレットがあります。
- ・敷地内は自転車を降りて押して通行してください。
- ・体調がすぐれない方や混雑している時など、来館をお断りすることがあります。
- ・また、マスクの着用など新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いします。
- ・ウォーターサーバーがあります。マイボトルをお持ちください。



エコレポートの中は…



3 スタディールーム 20人程度の講座や勉強会に適した場所。



5 アーカイブ クリーンセンターや環境に関わる情報をストック。Wi-Fiやタブレット端末での調べ学習も可能。

4 ものづくり工房 工作用具や作業台が並び、いつでも自由に廃材工作が可能。工作DIYイベントやワークショップなども開催。



空き箱、リボンボタン、筒など廃材を材料としてストック。

委員研修会報告

浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設を見学 地元住民の理解は？ 住民参加は？

武蔵野クリーンセンター運営協議会は、委員研修として日野市にある浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設を見学しました。この施設は浅川と多摩川に挟まれた桜並木沿いの自然豊かな場所にあり、日野市、国分寺市、小金井市の3市の可燃ごみを処理する施設です。多摩地区でも一番新しい施設として2020年3月に竣工、新工場の隣には旧日野市の解体前の焼却施設が残っていました。

地上6階、地下2階、煙突の高さは85m、1日に228tのごみを焼却できる能力を持ち、処理方式は武蔵野市と同じ全連続燃焼式(ストーカ炉)、5,190kwの発電設備を備えています。

4階と6階にある見学者コースから、可燃ごみをピットに搬入する3階のプラットホーム、1週間分のごみを貯められるごみピット、焼却炉、蒸気タービン発電機などを順番に説明を受けながら見学しました。

参加した委員の質問に対しても以下のように丁寧に答えていただきました。

●建設の経過は？

日野市独自に焼却施設の建て替えを予定していましたが、国分寺市、小金井市からの申し入れがあり、広域処理施設とする方針に変更しました。もともと日野市の処理施設があった場所であることから、あらためての用地選定を行っていません。

●周辺住民の理解は？

地元住民の反対がありましたので、市職員総動員で一軒一軒説明に回りました。また、市内8カ所で全体説明会を行い理解していただくよう努力しました。

●厳しい自主規制値の設定はどうして？

住民の理解を得るために排ガス濃度の規制値を全国トップレベルの厳しい自主規制値としました。



可燃ごみを搬入するプラットホーム

新施設の前で記念撮影。



●住民参加の運営協議会のような組織はありますか？

住民へのていねいな説明を行っています。5つの地元自治会が1つのテーブルにつくことができる連絡協議会ができました。連絡協議会に決定権はありませんが、タイムラグのない情報伝達と意見交換ができます。

●立地や住民要望から設定された高さや大きさなどの条件はありましたか？

煙突は85m(武蔵野市は59m)にしてほしいという住民からの意見にもとづいています。規模も日野市単独の案で220tだったところから、3市の施設であっても同規模にしてほしいとの意見があり、228tに決まりました。ごみを減らす対策をしないとその数字にはならないことから、この施設とは別に日野市単独の「プラスチック再資源化施設」をつくりました。

●災害を想定した対策は？

多摩川と浅川に挟まれた立地であることから、3mの浸水でも運転できる施設となっています。また避難場所には指定されていませんが、発電設備、飲み水としての井戸水もあり、6階に地元住民約200名に対応できるような備蓄もしています。

現在、コストや効率化の観点から「ごみ処理の広域化」が必要とされています。しかし、武蔵野市では市役所や住宅のすぐ隣にコンパクトな新クリーンセンターを建設し、市内のごみのみを処理し、周辺住民は運営協議会に参加し日常的に施設の安全な運転をチェックしています。他市に大きな施設を建設し市内のごみ処理を依頼する、また、他市のごみを受け入れるということは、ごみの分別・リサイクルを行い減量を進めるという市民の意識にも大きく関係してくるものと思います。最新の施設の見学を行いながら、今後のごみ処理について考えさせられました。



見学者コースから可燃ごみピットを見学。